

是
害
房
繪
詞
詞
書

小 引

一 茲に掲ぐるは曼殊院所藏是害房繪詞の詞書である。此繪卷に關しては本號所載望月信成氏論文「是害房繪詞について」を参照されたい。

一 活字に移すに當つては、努めて原本の體裁を傳へんことを期した。行數に關しては、各段の繪の中に挿入せる詞を便宜上書流しにし、且つ活字の體を本文より小にして之と區別して組める他は原本の儘とし、振假名送假名等の後入と考へらるゝものも可及的その體の儘に移すことにした。尙、文中の罫線は紙繼を示したものである。

一 不明の文字は□を以てし、其他(マ、)。 (カ)等の傍註を附し、又異體の假名は現今の活字體に改め一括して左に表示した。なほ括弧内に記せる文字は帝室博物館所藏摸寫本によつて補讀せるものである。(梅津)

ネ	井	オ	ケ	セ	ツ
子		オ	ケ	セ	ツ
ハ					
ホ					
マ					
メ					

是害房繪上

昔村上天皇御宇康保三年春之比

大唐^{タウ}是害房^{ヨリ}申^{マウ}大天狗^{オホテンノウ}首頂^{シユトウ}日本^{ニッポン}へ

來^キ愛宕^{アタゴ}護山^{ゴサン}ノ日羅坊^{ニッラホウ}云^{イハス}大天狗^{オホテンノウ}會^{カイ}チ

云晨旦^{ウチノヒ}佛生國^{ブツシヨク}チカキ國^{クニ}ナレハ佛法^{ブツポフ}威力^{イキ}

其數^{スウ}所謂^{ソウイフ}天台^{タイタイ}山^{サン}伊王^{イオウ}山^{サン}青龍^{セイリョウ}寺^ジ西

明寺^{メイジ}龍興^{リョウキョウ}寺^ジ般若^{ハツラク}寺^ジナント、申^{マウ}ニハ有^{アル}驗威^{ケンイ}

德^{トク}僧^{ソウ}其數^{スウ}不知^{シラズ}而^{シテ}我^ガ等^ト凌^{レイ}セヌ僧^{ソウ}一

人^{ヒト}ナシサレハ日本^{ニッポン}ハ小國^{コクニ}邊卑^{ヘンヒ}ノ境^{サカイ}ナレトモ

佛法^{ブツポフ}東漸^{トウセン}ノ國^{クニ}ナレハ日本^{ニッポン}定^{サダメ}テ有^{アル}智^チ有^{アル}行^{コウ}之^ヲ

僧^{ソウ}アルラン且^{ナニ}行德^{コウトク}推計^{スエ}旦^ニ出離^{シュツリ}ヲモサマタケン

トテ來^キ也^{ナニ}君子^{コノリ}隔^ヘ千里^{センリ}而^{シテ}其情^{コノナシ}同^{ナシ}少人^{シヤウジン}ハ

隔^ヘトモ一壁^{ヘキ}而^{シテ}其志^シ異^{ナシ}云^{イハス}ヘリ此道^{ココミチ}入^イ給^{タマフ}ヘ定^{サダメ}テ

同心^{ドウシン}ニコソ御座^{オウザ}ラメ先達^{サキダチ}給^{タマフ}ヘト云^{イハス}日羅坊^{ニッラホウ}申^{マウ}云

誠^{マコト}ニ我朝^{ソノミカド}栗散邊土^{リサンヘンツ}ノ小國^{コクニ}ナレハサセル行德^{コウトク}アル

僧^{ソウ}モナケレトモイツクモ同我^{ドウガ}ナレハ凌^{レイ}申^{マウ}トハ思^{オモフ}ヘトモ

叶^{カナハ}僧^{ソウ}モアマタアリ隨^{ズイ}今^{イマ}ノ仰^{オウ}ニ年來^{ネンライ}ノ本意^{ホンイ}遂^{スヘ}

イカニモ御先達^{オノサキダチ}ハ仕^{マツ}ヘシトテ先^{マツ}ニ叡山^{エイサン}具^{ツク}登^{ノボ}リ

ナカラ内心^{ナカハラウチ}ニヲモウ様此^{サマココ}道^{ミチ}ヨシミヲ憑^{ホシ}テ造^{ツクリ}境^{サカイ}ヨリ

來^キレルカナハシト云^{イハス}ハンモ无^{アル}興^{キョウ}ナレハ無^{アル}左右^{サウヤウ}ニ具^{ツク}シテ

登^{ノボ}レトモ他州^{タウシユ}ニ望^{マツ}ム時^{トキ}ハサスカニ我國^{ガクニ}ノ我報^{ガハク}

是害房繪詞詞書

ナカルヘキニアラス何^{ナニ}ナル僧^{ソウ}ノ便宜^{エンイ}アシク行^{ユク}

逢^{アイ}テ我國^{ガクニ}ノ名^ナヲヤオランスラム哀義^{アイギ}眞^{マコト}

和尚慈覺大師智證大師安然和尚相應

和尚法性坊ナムトノ様ナル人ノオハセン時ナラハ

日本^{ニッポン}ノ僧^{ソウ}驗^{ケン}程^{テイ}ヲ見^ミセテマシサリナカラ當^{タウ}

時^{トキ}有^{アル}驗^{ケン}ノ人々^{ヒトト}モ御坐^{オウザ}セハイカ、アランスラム

ト心苦^{ココロク}クテ登^{ノボ}ヌ

比叡坂本^{ヒエサカモト}

二ヒエノ山^{ヤマ}コソコ、ロニク、ハ存^{ゾク}シ候^{コト}ヘ 日羅房

下松談議所^{ゲマツダンギジョ}

是害房^{シヤウバウ}老法師^{ロウホフシ}ノ形^{カタ}ニ成^{ナリ}テ伺^{ウカ}ケリ日羅房^{ニッラホウ}ハ

我身^{ガミ}ハ人^{ヒト}ニ見^ミシラレテ侍^{ウカ}レハ立忍^{リツニン}候^{コト}ハムトテハルカノ

木陰^{モクイン}ヨリマカケサシテソノソキケルサルホトニ

千光院^{センコウイン}ノ餘慶^{ヨケイ}律師^{リツシ}内裏^{ナニ}ノ御修法^{オウシュホフ}ノタメニク

此人^{コノヒト}火界^{カカイ}咒^{ジュ}ヲ誦^スシテ下^ゲラレケレハ

タラレケリ鐵火輪輿^{テツカリン}ノ前^{マヘ}ニ現^{アワ}レ飛^{トビ}ケル力^{チカラ}是

害房^{ガイバウ}ヲサシテカ、リケレハ其^{ソノ}アタラシト

ニケ、ルウヘハ凌^{レイ}セム事^{コト}オモヒヨラス

餘慶律師^{ヨケイリツシ}

是害房^{シヤウバウ}コレハナニトシタルコトソヤア、ア、

日羅房^{ニッラホウ}コノモノコソテアハセニケフサメタリケナレ

律師^{リツシ}過^ス給^{タマフ}デノチ日羅坊^{ニッラホウ}木影^{キエ}ヨリ立出^{タチデ}テ

害房申云サ候ヘハコソイシク伺寄候ツルホ

トニ興ノ前火輪ノ現候ツルカ殊ニ此法師ヲ

サシテ飛カ、リ候ツルアヒタ羽ヲモ焼候テハ飛

行心ニマカセシテ本國ニ歸ヘリカタク覺侍リ

ツレハコレハカリヲハヤリスコシテ候ナリト云

日羅房申云此人ハ大聖不動明王ノ持者ナリ

此明王者入火生三昧ニ其光普照ス無邊ノ

世界ニ火焰熾盛ニシテ焚燒ス諸障ヲツカニ

火界咒誦スレハ大智火ヲ出シテ焚燒ス一

切ノ魔軍ニ何況是明王ノ憶念スレハ一切魔

衆不レ敢ニ親近ニ當遠ニ離ス是修行者ノ所住

之處ニ一百由旬ノ内ニハ无レシト有ニト魔事及鬼神等

云ヘリ而轉近給ツルコソアヤウク覺ヘ侍ヘレサ

リナカラ此明王ハ雖破魔軍ニ後ニ與ヘ法藥

雖現忿怒ニ内心ニ慈悲アリト云ヘリ今暫クコ

ラヘ給ハ、必ス巨益ニ預給ヒヌヘシイフカイナク

モヤカテ逝去給ヘルモノカ

トル人ハヨモ候ハシ手合ニカヤウルウヘハ

ヨク御ハカラヒアルヘク候ラム

是害房今度ハナシニト思ヒテ又本所ヘノソ

ミテ我執ヲオコシテ侍ホトニ暫許アリテ

手輿ニ乗タル人勢トシテ山ヨリ下ラレケリ

是ハ九條殿ノ御子ニ尋禪飯室ノ權僧正ト

申人ナリケリ此人モ不動ノ慈救咒ヲ誦シテ

下給ケル間興ノ前ニ金迦羅制多迦ノ二童

子現シテコノ是害房ヲ追ケレハマタ暫モ

コラヘスシテ前ノ如クニ逃ケル

飯室權僧正

金迦羅童子 ニケハイツクマテヤルマシキモノヲ

制多迦童子 我等カ加護シタテマツル行者ノアタリニカ、ルモノカケヲサスハ

キニアラスモノナラハカサムスルモノヲ

是害房 ヤクナイ童子ノアシノハヤサカナサリトモアトニハツクマシキモノヲ

僧正過給テノチ日羅房又是害房ヲ求

ムレハ遙ナル藪ノ中ニカホ氣色タカヒテ息續

居タリ何ニト問ヘハサレハコソヤ今度ハサリトモト

思ヒツル程ニ髪アカクチ、ミタル童子二人我ヲ見

ツケテシレ物ニモノナラハカサムトテ追立ラレテ

候ツルカ背ヲウタル、様ニ候ツレトモカラウシテ

逃ノヒテ虎口ヲ遁レタル心地シテアマリ苦シク侍ル

也此躰ナラムニハイカ、候ヘキト云ヘハ日羅房申

云此人モ聖无動尊大威怒王ノ行者也此

此明王ハ大威力マシマスカ故ニモシ眞言ヲ持

テハ十二火天ツネニ加護セリ加之俗羯羅制

吒迦等鎮ニ行者ニ奉仕シテ世尊ノ敬如クニセリ

マコトニ畜類魔道ノ身トシテ惱マシ奉ツラム事難

カルヘシ雖然明王ノ本誓ヲ尋ヌレハ

一切衆生 意想不同 是故如來 或現慈躰

或現忿怒 教化衆生 各々不同 隨衆生意

而作利益 雖破魔軍 後與法藥 雖現忿怒

內心慈悲ト云ヘリ此由ヲハ粗先度申侍ヘリイフ

カヒナクモ又送給ヘルモノカナ此大明王ミナ

大根性ノ者ノニハ聖无動忿怒ノ形ヲ現シ中根ノ者ノニハ

二童子ヲ得奉見一_ル下根ノ行者ハ怖畏ヲ

ナシテ見タテマツル事アタハスト云ヘリ御房ステニ

二童子ヲ得奉見一_ル明知_ニ當_ニ中根之機_ニ云事ヲ

感應道交 故必預利益一_ル何況是大明王ハ

付不動定ニ无_シ其所居一_ル但住衆生心想之中ニ

其身非有ニ非ト無ニ云ヘリ此則无有各別之身一

切衆生ノ自性清淨天然无動ノ理躰稱之ニ

名不動尊ニ汝若驪_ニ无始ノ邪妄ノ觀_ニ不

生妙理_ヲ忽_ニ顯_ニ凝然不動ノ理速現_ニセハ聖

者忿怒形_ヲ童子還_ニ生_ニ竭仰_ニ伴黨_ニ頗_ニナル

預_ニ濟度_ニ雪山童子ハ投_ニ全身_ニ薩埵王子ハ

捨身命_ヲ畜類惡趣ノ依身惜而_ニ爲_ニ何_ニ不_レレ

如捨_ニ於生死ノ一身_ニ如得_ニ證_ニ於佛果ノ三身_ニ此

上_ニ何様_ニ御房ノ心_ニ御坐セメサリナカラ_ニ其

程_ニ手モトニ覺ヘヌ人ノ萬里ノ浪_ニ凌_ニハル_ニト

渡給ヘルコソ其矜ナク覺ヘ候ヘト天狗心地ニハケ

其時唐土ノ大天狗我國朝ニ來ル由ヲ聞テ

日羅房同行平山_カ大天狗聞是房來テ

申様左右ナク推參仕事ハ恐存候ヘトモ

是害房繪詞詞書

客人、御渡_ト承候_ニ參_ニ候ナリ此老法師ハ

昔守屋大臣ノ破法ノ時其罪ニヒカレテ此道ニ

入_テヨリ後_ハ平山_{比良}ニ住_ニ數百歲_ヲ送候ヘハ日本ノ

僧ノ有様見知仕_ニ候ソノカミ文德天皇ノ

女御染殿后_ハ石山ノ行者紺青鬼_ト成テ

ナヤマシタテマツリシヲ智證大師加持_シ給_ヒ

ケレハ其後_ハ近江ノ水海ニカクレ侍ヘリシカトモ

恥_ヲカク事ハナカリキ又清和天皇ト木原

王子ト春宮_ヲアラソヒ給_ニ時眞濟_ハ木原ノ

王子ノ御持僧惠亮_ハ清和ノ御持僧ナリヲノ

精誠_ヲ勵_ニマシケルニ木原ステニ東宮ニサタ

マリ給_ト聞_ヘケレハ惠亮腦_ヲクタクテ

護摩ノ爐壇ニ燒ケル時木原忽_ニ崩_ニ給_ニテ

清和春宮ニツキ給_ニ又眞濟_{イキトホリ}ヲナシテ其

身魔道ニ入_シカトモタ、チニ恥_ニヲカフル事

ナシ凡物ヲ凌スルモ能_ニ用意アル事也

不動、降_ニ三降_ニ世_マ、軍荼利、大威德、金剛夜叉、

コノ五大尊ノ持者_ヲハツレタル僧ハナケレトモ

其器量ノホトヲ計_ニ目タリインチヲコ

ソ振舞_ヲ事ニテ候ヘシカルニ兩度マテ

恥辱ニヲヨヒ給_ニフ事コ、ロニク、モ覺ヘ候ハス

ヨク_ニ御斟酌_{シンシヤク}アルヘクモヤ候ラム加様ニ申候

事尾籠ノイタリニテ候ヘトモ御心得_ヲタメニ

老心ノ及_トコロヲ申ナリト云ヒケリ

是害房コタヘテ云ハクマコトニ仰^レ存知ノ
タメヨロコヒ入テ候ヘトモ且^ハ本國ノ徒黨ノ歸
聞候ハム事モ恥存候又各ノ御覽セラレム所モ
クチオクオホヘ候ヘハ三百余歳ノ老ノ恥ヲキ
ヨメ候ハテハ本國ニ返テナニ、カハシ候ヘキサレハ
今度ニヲキテハ他洲ニテカハネヲ捨候ヘク候各
目ヲスマシテ清養^{サイ}ウチ候ハムヲ御覽セラ
ルヘク候ト云ケリ

- 七 オヒノナミニイトヲシキコトカナ、イカ、セムスル
- 二 コノ御房ハヨク申サル、モノカナ
- 三 ケニモ
- 六 アハレナムチノコトヤナ
- 平山聞是房 一 後悔サキニタ、ヌ事ニテ候ヨク御ハカラヒアルヘク候
- 五 日羅房 兩度マテハチヲカキタマイヌレハ我執オコサル、コソコトハリニ
テ候ヘ
- 是害房 四 胸病ノタチカヘリトイフコト候ヘハ此度^{コノ}ハサリトモトコソオホヘ
候ヘ存シキリテ候モノヲ

是害房ノチハシラス思切タルヨシヲ申ケ
レハ日本ノ天狗トモマコトニヤト思テ居タルホ
トニコノタヒハ天台座主良源御廟ノ大僧正
慈惠大師赤袈裟^サカケタル從僧容顏^顔妙
ナル童子其數前後ニタナヒキテ天台宗ノ
肝心ノ法文豈離伽耶別求常寂非寂
光外別有娑婆ト觀念シテ叡山ヨリ下給ケ

リ事ノ躰マコトニ超過シテソ見ヘケル
是害房先ミヨリモムナサワキシテオホヘ
ケレトモサスカニツカヒヲキツル詞モハツカシ
カリケルウエ^童天等ノ容顏ノ妙ナルニハヤサレ
テ^ト遠^ト立ノク事モナカリケル程ニ童子達
見ツケテコ、ナル老法師ハ只物^ニアラスニカ
スナト云ケレハ恥ノ事モオホヘスカキフシテ
逃ケルヲ童子達追取テ其身^ニ繩ヲツケ
ヒキハリテ乙護法若護法ヲハシメトシテ
ケタリフウタリ散ミニナフリスデ、ノホリ
給ヌ

- 天台座主
- 九 アライトヲシヤイマハタ、ハナタハヤ
- 八 左右ナクコロシタマフナワレラカテニモカケ給ヘ
- 七 サレハトテアヤマレルトカモナカラムニ命ヲタツマテハアルヘカラス
- 六 佛法ノ怨コソ我等力敵ニテハアレ忽ニ命ヲタ、ンスルモノヲ
- 四 自業自得ノ道理也人ヲウラムヘカラス
- 乙護法 二 フ法師力造意ハミナシタルモノヲイヨ、ニクキ申ヤウカナ
- 是害坊 一 佛法修行ノ爲ニ來タル老法師ヲイカナルツミニテカクハセラレ候
- ヤラム佛法守護ノ童子達無下ニ慈悲カケテコソオホヘ候ヘ
- 三 若護法 魔縁ヲ降伏スルハ是慈悲深重ノ作行ナリ奇惟ノ申狀カナ
- 五 撥無因子ノ邪見ヲハ是ニテアラタムヘキモノヲヤ
- 日羅房 今度コソ此法師ハウセハテツレ不便ノ事カナ、

是害房

繪下

大師登給テ後日羅房（例の方）ヨリ出テ是害房

見レ目許シハタ、キテ臥リ居（例の方）と云ヘトモ物モ不言

漸久有テ云様如何ニ御房ヲ憑奉リテコソハルノト

他州晨旦ヨリシラヌ日域ノ境ニ來テ候ニ生佛ノ様ナル

御房達ニハナチ合テカ様ニ憂目ヲハ見セ給ソ五躰皆碎テ

今ハイキヌヘシトモ覺ス三百余歳ノ老ノ恥日本ニ渡テカキ極

候ヌ人ノ勸メニアラサレハ誰ヲ恨申ヘキニハ非ス今ハ惜カラヌ

命ナレトモサスカニ死レヌ身ナレハ今一度本國ヘカヘラハヤト存

候ニ若湯治ナトヲシテ身モヤタスカリ候ト存候ニ醫道ニ心得

タル天狗ナト候ハ、仰合ラレテ御恩ニ蒙候ハ、ヤト申セハ日

羅房云マコトニ憑テ御渡候ヘハ疎略存事ハ努ミ候ハス

大國ヨリ此料ニ態ト渡給ヘハ心ニク、思奉リテ自力年

來ノ本意ヲモ此次ニトケ候ナンスト悦存候所ニ今ノ作法目モ

アテラレス覺候凡晨旦ノ名ヲ折ノミニ非ス本朝モ此道ノ

名ハ失ハテ、コソ候ヘ日本ヲ小國ナリトテアナツリ給カ愚ニ覺

候ソ其故ハ吾朝ハ神國也往古ノ如來大權薩埵實報寂光ノ都ヲ

出テ日域扶桑ノ境ニ入跡ヲ垂テ佛法ヲ守リ光ヲ和テ衆生ヲ利シ

給フ是以神宮皇后ハ高麗百濟ヲセメ上宮太子ハ新羅任

那ヲシタカヘ給ヘリ是皆異國ノ魔賊ヲタヘラケテ本朝ノ

佛法ヲ守ンカ爲也新タナル是併靈地他州ニ過レ效驗我朝ニ

新タナル故也何況優填赤梅檀ノ尊容月蓋紫磨金ノ

是害房繪詞詞書

形像皆尺尊在世ノ奇特タリ悉吾朝ニ留給ヘリ
勝地ノ余國超タル論セサル者歟靈地其數多中ニ
磯長寺者是過去七佛法輪處大乘相應功德地

一度參詣離惡趣決定往生極樂界ト

云ヘリ依之上宮太子勝地ヲ本朝ニ撰テ身

骨ヲ此砌ニト、メ濟度ヲ末世ニ施シテ利益ヲ

群類ニ及シタマウ堀内偈起注文勝地ノ

極レル感シテ猶有餘者歟是以弘仁元年

月十五日ノ夜弘法大師此砌ニ詣シ給シニ御廟

堀内ニ光明輪アリ光ノ中ニ彌陀ノ三尊現シテ

法花勝鬘等ノ大乘ノ要文ヲ誦シ給ヘリ見佛

聞法ノ力ニヨリテ大師第三發光地ヲ證給ヘリ

四天王寺者釋迦如來轉法輪ノ所當極樂

土東門中心ニ也七寶ヲ地ニ敷テ青龍恒ニ守

護麗水東ニ流レテコレヲ飲ハ法藥トナル

何況ヤ寶塔ノ九輪ヲ瑩遺法ノ興滅ヲ表シ

護國ノ四天ヲ崇テ他境ノ怨賊ヲ防ク

金剛山者是法起菩薩ノ淨土常在說法ノ

道場ナリ神砂大王椎ニ集會ノ鐘ヲ說法六

時ニ間斷ナシ何況花嚴經中ニ東北方ニ有處

名清涼山ニ從昔已來諸井衆於中ニ止住、

現有井名曰文殊師利與眷屬諸井衆二

萬常在其中ニ而演說海中有一處名金剛

山ニ從昔已來諸井衆於中ニ止住現有井

名曰法起、與其眷屬衆千二百人俱常在

其而演說法、靈地多中、唐土ノ清涼

山吾朝ノ金剛山被載佛記之上者可_ニ仰信_一

者歟凡當山_ニ有_ニ五名_一久遠劫已來三災

不壞故名金剛山_ニ法起并從往昔常_ニ住_ニ

此山_ニ而演_ニ說_ニ妙法_一故號_ニ轉法輪山_一我國昔

爲海中_ニ之時天照大神自_ニ天宮_一率_ニ八萬神

達_ニ而降當山_一始_ニ成_ニ國土_一故名_ニ神福山_一一萬四千

七百ノ餘ノ神祇來住而守護_ニ日本國_一爲大福田_一

故稱大福山_ニ又超_ニ過_ニ餘山_一而爲_ニ靈峯_一故云_ニ

一乘山_ニ是則表_ニ一乘弘宣之儀_一也依之役

優婆塞布妙經_一出此山_ニ施_ニ濟度_一出彼

砌_ニ大峯_一是金剛藏王涌出_ニ獄十五童子

涌出砌也依之行者兩部ノ曼荼羅_一圖_ニシテ

十三九會_一示_ニ三密瑜伽ノ行_一修_ニシテ三十七尊_一

顯_ニ高野山者又密教相應之處修禪

入定之砌也三鉢_一樹上_ニ留_ニ密教ノ靈地_一

示_ニ一劍_一地下_ニ堀_一古佛之舊基_一顯_ニハス

依之弘法大師此山_ニ入定_ニシテ遙_ニ慈尊_一出世_一

待給_ニ就中叡山者拘留孫佛說法ノ場_一ニハ

山王權現雍護ノ砌也是以傳教大師阿

耨多羅三藐_一三菩提_一佛_ニ祈給_ニ鎮護

國家ノ道場_一建立_ニシテ藥師靈像_一中堂_ニ安

置_ニ圓宗ノ佛法_一此山_ニ弘通_ニ給_ニヘリ醫王

光朗_一シテ七千ノ夜叉佛法ヲ守護_ニシ一乘、

藥鮮_一シテ十羅刹女行者ヲ擁護_ニシタマフ

依之持經者ヲ惱_ニセハ頭七分_一破圓宗ノ教_一

謗_ニスレハ舌口中_一爛_ニ云_一ヘリ加_ニ之經文_一ニハ天諸童

子以爲給侍ト說_ニキ解釋_一ニハ唱首楞嚴_一

名魔尙被縛ト尺セリサレハカ、ル目ヲ見

給コソコトハリニ覺侍ヘレ御湯治ノ事ハ心ノ及候ハ

ムホトハ沙汰仕ヘク候ト云フ是害房云マ

コトニ日域ノ靈驗今ハナヲ震旦ニハ勝テ

侍ヘリケリ佛法東漸ノ謂理ニコソ覺ヘ侍ヘレ

但シ今カ、ル目ニアヒ侍ヘレハトテ強_ニ下_一シナ

ハテ給ソヨ其故ハ佛法ヲサマタクル者本地

アサキニアラス是以維摩經ニハ不思議解

脫ノ井ナリト說_ニキ荊溪ノ尺_一ニハ入地菩薩能

作魔王ト云ヘリ依_ニ之調達_一ハ大權ノ示現守

屋ハ深位ノ大士也是皆佛菩薩ノ化儀ヲ

助ケムカタメニ假_ニ惡相_一ヲ示_ニス其上我等大乘、

祕密ノ教ヲ受テ無上甚深ノ行ヲ修スト云ヘト

モ教ノ堆_ニヲ執_一シテ一念ノ慢心ヲ起スカ故ニ聊

此道ニ趣テ且ク生死_ニ留_{レリ}雖然了_ニ因_一ニ

薰_ニシ緣_一因外_ニ資_一ハ邪見ノ稠林ヲ捨ステ、

菩提ノ正路ニ入ヘキ也何況ヤ法花圓宗ノ意

者諸法實相ト說ケリナニハノ事モ佛法也

魔佛一如ト談セリ魔界界即佛界ナリ

就中佛法守護ハ皆是折伏忿怒ノ貌ナリ

依之今ノ慈惠大師ハ十一面ノ化身ニシテ慈悲

眼ニ滿テレトモ圓宗ノ佛法ヲ護ラムカタメニ、

大天狗ニ成ラムト誓ヒ給ヘリサレハ遂ニハ我等カ

種類ナルヘシ凡ソ惡ヲ現シテ善ヲ助クル是

レ方便ノ甚シキナリ忽緒ニ思ハルヘカラス

骨肉苦痛一起居心ニカナハス恐入タル事

ナレト物ニ載テカキ給ヘト云フ日羅坊云

今ノ仰ニコソスコシ心ニク、ハ覺ヘ侍ヘレ龍象ノ

蹴踢驅ノ堪ルトコロニアラスト云ヘリマコトニ

凡夫畜類ノ身トシテハ爭テカ大權示現

ノ邊ヘハ近給ヘキ若シ内證高タル人ナラハ

還テ護法ノ善神ト成給ヘトテ眷屬共ヲ

催テ賀茂河ノ邊ヘカ、セテ行ク力者

ノ天狗嚙テハヤシヲイタシテ咬ケリ

フルカラカサカ是害房コホネヲレテミユルハ

庭ノマリカ是害房ヲイマハリテケラル、ハ

キヌハリカ是害房ナハヲツケテヒキハルハ

見參ノイタカ是害房アシニマカセテフマル、ハ

名聞ノ是害房モノニノリテカ、ルレハ

日羅房 先達得分ニカ、ルワツラハシキ事コソナケレ

狂句カヤ是害房ワラハレテカ、ル、ハ

是害房 イタウハヤクナカキ給ソユラレテワヒシク候ニ

吉簀力^{キツサキ}是害房打テノチニカ、ル、ハ

是害房繪詞詞書

是害房カ、レナカラ申云同クハ藥湯ヲ

アミ候ハ、ヤ近キ程ニ出溫ナムトハ候ハヌヤラム

日羅房云我朝ニ出溫其數侍ヘリ然レトモ

熊野ノ溫峯箱根ノ湯本ナムト申侍ヘルハ

程トヲク候ヘハ其マテ病體ヲカキ奉ラム事

イタワシク侍其上カノ處ニハ和光ノ月

朗ニシテ煩惱ノ闇ヲ破シ垂迹ノ風ハ

ケシクシテ魔障ノ雲ヲ拂フ其外ミ

ヤコ近キホトニハ有馬ノ出湯トテ諸人

療治ヲ致スト云ヘトモ彼所者又醫王善

逝應化ノ場ニ行基菩薩利生ノ砌ナリ

藥師ノ靈像ヲ此地ニ埋テ佛身ヨリ藥湯ヲ

出シ地獄ノ東門ヲ此所ニ示シテ罪人ヲ黃

泉ニ禁我等彼所ニ望ハ十二神將怒ヲ

ナシ七千夜又誠ヲ加ヘシサレハタ、賀茂

河ノ邊ニテ忍テ溫出ヲシ給ヘシ此河ハ賀茂ノ

大明神ノミタラキヨリ流レタリ彼明神

愛宕郡ノ地主平安城ノ鎮守ナリ其流ヲ

浴セハ無始ノ罪障キエヌヘシトテシカルヘ

キ所ニ溫室ヲカマヘテ湯治ヲソ始ケル

センシモノモチテマイリテ候ト申サレ候ヘ

聞是房 イマハアケタテマツルヘキヤラム

是害房 イマシハラク ツイテニカユキトコロタテ候ハム

日羅房 ホトヲハハカラヒ給ヘ

木カナマシクテフカヌカキリハモエハコソ

コノ役ハカリホネヲル事ハアラシ

カクテ一七日ニモ成ヌレハ心モヤウ／＼ナリ
身モスコシタワヤキケリ是害房申

様イマタカイ／＼シクハ侍ラネトモサノミ久
ク逗留セハ猶モウキ目ニアヒヌヘシイソキ
本國へ歸リ侍ラムサテモ今度ノ御恩コソ

生ミ世ミニモ報シカタクハオホヘ侍ヘシ若
渡唐ナムトシタマハ、カナラス尋給ヘシ我
國ノ靈地トモコマカニ先達申サムト云ヘリ

日羅房申云一樹ノ陰ニヤトリ一河ノ流ヲ
クム。皆多生曠劫ノチキリナレハ此ノ程馴タ
テマツリヌル結縁サタメテ空シカラシ彼

□□□ノ衆ノ杖木瓦石ヲ加ヘシ毒鼓ノ縁
ニヨリテ靈山ノ會座ニ烈ナリ今ノ提婆達
多力出佛身血ヲ犯セシ惡逆ノ因ニ酬テ天

王ノ記別ニ預カレリ我等力此道ノ首頂ト
ナル皆是先世修行ノ力ナリ宿因甚タアサ
カラス今ノ慈惠大師ハ大權ノ示現也

給仕ノ童子亦是レ佛法守護ノ天等也
現縁往因ニ和合セハナトカハ出離セサルヘキ
生死嶮岨ノ先達ハカ、ル留難ニ會ヌヘシ

早く邪見ノ妄執ヲ改テ速ニ菩提ノ直路ニ
趣給マヘ前ニ得脱セム人ハ五導侍ルヘシ

抑今ヲ限ノ御名殘ナレハ各一首仕ルヘシ
トテ

日羅房

煩惱ノツモレル垢ヲミタラキノ
キヨキナカレニス、キツルカナ

平ノ山ノ聞是房

峯ニスム月ヲヨコキルムラクモヲ
ハケシクハラウ山アラシカナ

木コリ水クミノ天狗

水ヲクミタキ、ヲコリテカクハカリ
キミニツカヘテナニヲカモエム

維那ノ天狗

カライ目ヲミテカユカリヲヌ、ヌ身ハ
カモノカハラニタテユヲソスル

火タキノ天狗

鴨カワノ鵝ノユイテノ火タキシテ
ヒハタカヌカトセメラレソスル

是害房申云マコトニ今ノ御名殘ワスレ

カタクコソ侍ヘレ就中面々ノ御詠感嘆
是甚シ默止スヘキニアラス我國ノコトワサ

ナレハ詩賦ナントヲ申侍ルヘケレトモ此國ニ
入ヌレハ風俗ヲ觀ヘキモノナリヨリテ

一首コレヲ申ストテ

老ノナミニモロコシ船ノキヨセツ、

アキツシマニテウキメヲソミル

六 人□□ 唐土ニモイカナル有驗ノ僧カアルラムソレヨウナキコトナリ

□□天狗 五 日羅房ナトハアノ御房ノヤウニハヨモオワセシサラハワタリ給
テ日本ノ天狗ノ名ヲモアケ給ヘカシ

三 聞是房 此モノハワレノヲタハカリヨセテカ、ル事ニアハセテワラハム
ト思テ申候モノヲ

鬼喰天狗 四 アノカホケシキヲ御覽候ヘカシタハカリ申候條勿論ノ事ニテ候
モノヲ

日羅房 二 日本ノ僧ハカ、ル人トモニテ候ホトニオモヒヨラス候淺シテアソ
ヒタク候ハムトキハオモヒタツヘク候

是害房 一 振旦ハサスカニ大國ニテ候ヘハヤムコトナキ事モ多クヲノノカ
マヘテ思食立給ヘ此法師ハ名アル物ニテ候ヘハ御尋候ハムニカクレアルマシク
候

サテモアルヘキナラネハトテ是害房

本國ニ歸ケレハ日本ノ天狗トモ、ヲノノ

本所ヘソ歸ヘリケル

寫本云

延慶元年初冬下旬之候於磯長寺

塔本草菴寫之

是ハ宇治ノ大納言ノ物語ニ見ヘタリ狂言寄

語之誤ニ似タリト云ヘトモ又佛法效驗ノ德

ヲアラハセリシカルユヘニ佛法歸依ノコ、ロ

サシヲモヨヲシ小兒徒然ノウレヘヲヤス

メムカタメニ閑居ノオリフシヨナノコレヲ

カクユメノ他坊ノ外見ニヲヨフヘカラス

是害房繪詞詞書

穴賢とと□

于時嘉曆第四中秋下旬候於石川郡

上村積恩寺曼荼羅院西部屋書寫了

偏爲上求菩提下化衆生也後見之

人不可嘲弄穴賢とと 圓譽

文和三年卯月十二日於下有智庄神光